1e2023-012

2023 会計年度

一般財団法人ワンアース
事業報告書

2023 年 9 月 30 日

一般財団法人ワンアース

1e2023-012

はじめに

一般財団法人ワンアースは、宇宙的視点から、この星の、いのちの美しさを体感し、ひとつの星で共生するという新しい価値観に基づいた文化交流で、世界を一つに繋いでゆく、という目的を掲げ、平成 27 年 6 月 5 日に創立された。

本書は、当財団の 2023 年度（2022.10.1-2023.9.30）の事業報告である。
なお、当財団の事業年度は 10 月 1 日に始まり 9 月 30 日に終わる。

2023 年 9 月
代表理事
長谷川洋一

1e2023-012

1. 当財団設立の目的

宇宙的視点から、この星の、いのちの美しさを体感し、ひとつの星で共生するという新しい価値観に基づいた文化交流で、世界を一つに繋いでゆく

宇宙飛行士が、宇宙から生々しい言葉と映像を伝える時代になり、この星のありのままの姿が認知されるようになった。その結果、かけがえのない母星で共に生きる『地球市民』という新たな価値観が、国境を越えて醸成されつつある。

一般財団法人ワンアース®（以下、ワンアースという）は、地球市民、とりわけ未来を担う青少年らとともに、宇宙的視点から、この星の、いのちの美しさを学ぶ。

そして、国境を越えた地球市民活動を展開し、各地域の風土や文化の多様性を、相互に敬意を持って受け入れ、宇宙文化とも言える新たな共通の価値観を紡ぎ出す。

これらの活動により、この星に生きる誇りと喜びを共有し、世界を一つに繋いでゆくことを究極の目標とする。

2. 重点分野

当財団は、以下の分野を重視して、活動をスタートした。

1） きぼうの桜事業

宇宙桜（きぼうの桜）を筆頭に、宇宙すみれ等を、東日本大震災、阪神淡路大震災、日航機墜落事故、原爆等の被災自治体に贈呈し、地域間、世代間、そして未来との「立体交流」の礎を築きつつ、大災害の記憶と教訓を31世紀まで継承するための礎を築く。

2） 宇宙文化の創造事業「東北復興宇宙ミッション」

国内外からの地球市民の参加を得て、国際宇宙ステーション等を活用した宇宙ミッションを始動し、宇宙的視野からみた地球の姿および宇宙飛行士からのメッセージなどを世界で共有し、宇宙文化を創造していく。

具体的には、東日本大震災発災から 10 年にあたる2021年3月11日に向け、東北復興の姿と支援への感謝の気持ちを全世界に伝えるための宇宙ミッションを実現した。国際宇宙ステーション（ISS）を放送局に、野口聡一宇宙飛行士をアナウンサーに見立てて動画で発信し、世界から注目を集めた。（NHK おはよう日本冒頭など報道無数）

1e2023-012

3. 2023 年度事業報告

2023 年度(2022.10.1-2023.9.30)には、以下の事業を行った。

当初事業計画(1e2023-001)に対比して進捗報告を行う。

当初事業計画骨子(下線は重点項目)　＜公開資料 1e2022-001 より＞
定款に則った活動の実績を上げつつ、公益財団化を見据えた会計システムに則りつつ、受注活動も促進し、財政基盤の強化を行う。 きぼうの桜計画は、引き続き当財団の存在意義に関わる最重要事業として推進し、東北三県沿岸の全市町村にて計画を公式化し、その 3 箇所程度において、春期に植樹祭を行う。 また、きぼうの桜をとりまく市民文化の醸成のため、物語および歌(合唱曲)を広く周知する。 さらに、2021 年 3 月 11 日を中心に遂行した東北復興宇宙ミッションのレガシーを継承・発展させ、外部有識者・協力者らの意見も取り入れつつ、そして市民(特に次世代の少年少女ら)の参加を大いに盛り立てつつ、復興史に残るような市民プロジェクトに育て上げる また、ワンアースの活動をグローバルに認知してもらうために、全地球的な課題である気候変動への対応意識や自然資本の保護意識向上を推進する。

重点項目達成状況概略		◎十分達成、○ほぼ達成、△遅れている、×問題有り
①	財政基盤の強化	○茨城県信用組合、日本政策金融公庫との関係を維持
②	きぼうの桜植樹祭	△コロナの残影響もあり、予定が大幅に狂ったが、田野畑村や大熊町への植樹計画を進めることが出来た。
③	東北復興宇宙ミッション	◎復興庁補助金を活用し、各地を入念に回り、レガシー継承の基礎を創ってきた。さらに、楢葉町補助金等を活用し、コロナ明けも集合イベント「第 1 回 復興宇宙サミット」を遂行した

YOUNG SUMMIT

2023年8月4日　楢葉町みんなの交流館CANvas

2023年8月5日、福島県楢葉町にて「第1回 復興宇宙サミット2023 in NARAHA」が開催されました。 19地域の代表と多くの小中高生が集まり、大震災の記憶と教訓を後世に伝えるための広域協力・世代間協力、そして宇宙ミッションの成果活用などを話し合いました。
今回は山崎直子宇宙飛行士が駆けつけ、講話のほか、たっぷり時間をとって青少年らと対話してくださいました。さらにフィナーレでは合唱曲「きぼうの桜」の作曲者しゅうさえこ先生も登場♪会場全体が歌声でひとつになりました。

松本幸英・楢葉町長ご挨拶

山崎直子宇宙飛行士
（東北復興宇宙ミッション実行委員長）

開会を飾った楢葉町天神太鼓うしお会の演奏

しゅうさえこ先生
（きぼうの桜作曲者）

交流トークのためにずらり並んだ
19地域代表＆中高生代表7人。中央に山崎直子宇宙飛行士

【大人代表（写真左から）】 福島県楢葉町・松本幸英町長（ホストタウン）、岩手県洋野町・大芦俊一特定政策推進室長、山形県米沢市・中川勝市長、
山形県飯豊町・後藤幸平町長、宮城県石巻市・千葉宏一政策企画課長、宮城県名取市・山田司郎市長、福島県伊達市・須田博行市長、福島県福島市・丹治誠市議会議員、
福島県川俣町・佐久間裕晴教育長、福島県浪江町・成井祥副町長、福島県双葉町・徳永修宏副町長、福島県大熊町・佐藤由弘教育長、福島県富岡町・竹原信也副町長、
山崎直子宇宙飛行士（東北復興宇宙ミッション実行委員長・ワンアース名誉顧問）、福島県いわき市・藤城良教副市長、山梨県北杜市・上村英司市長、
新潟県糸魚川市・靍本修一教育長、兵庫県南あわじ市・西岡義文危機管理部長、鳥取県湯梨浜町・上井明彦まちづくり企画課長、高知県仁淀川町・荒木紀和企画振興課長
【次世代の青少年代表】 木村遥人さん（福島県立ふたば未来学園高等学校）、安部結愛さん＆飯野百南さん（川俣町立川俣中学校）、
佐々木康晴さん＆興梠武龍さん（北杜市立甲陵高等学校）、竹内茉奈未さん＆小野さくらさん（新潟県立糸魚川白嶺高等学校）

飛べ！傘袋ロケット

甲陵高校のお琴演奏

本物の宇宙横断幕の御披露目
2020年にこれを縫製したこども代表と

南あわじ市→浪江町へ
【宇宙たまねぎ】贈呈

THE BBQ

20230804

THE SPACE PARTY

20230805

震災学習・町内視察

2023年8月6日
日本原子力研究開発機構楢葉遠隔技術開発センター
しろはとファーム甘藷貯蔵施設
J-VILLAGE

２０２３．７．２５　福島民友新聞

楢葉で復興宇宙サミット

ワンアース5日、地域連携へ意見

一般財団法人ワンアース（茨城県）は8月5日、楢葉町で第1回復興宇宙サミットを開く。同法人は、被災地から託された植物の種などを宇宙に打ち上げ、復興のシンボルとする「東北復興宇宙ミッション」を展開してきた。サミットにはミッションに参加した20の自治体が集まり、今後の連携策などを協議する。

東北復興宇宙ミッションでは、本県をはじめとする各地の自治体がそれぞれの地域を象徴するような植物の種をワンアースに託した。国際宇宙ステーション（ISS）まで運ばれた種は各自治体に返され、大事に育てられて地域おこしなどに使われている。

今回のサミットは、ミッションを通じて結ばれた宇宙規模の縁をさらに強めていくことが狙い。同法人名誉顧問で宇宙飛行士の山崎直子さんが参加し、各地の代表や子どもたちと意見交換する。地域おこしでの連携に加え、サミットの参加団体は東日本大震災の記憶と教訓を後世につなげていく方法などについても協力していく。サミットは、楢葉町コミュニティセンターを会場に午前10時から始まる。入場無料で、申し込みなどは不要。午後5時ごろの終了を予定している。同法人によると、サミットは毎年、各地の持ち回りで開催していく予定という。

福島民報
2023（令和5）年
8月6日
日曜日

宇宙で結んだ縁育む

児童の質問に答える山崎さん（右）

楢葉で復興サミット

地域の連携確認

飛行士の山崎さん講演

一般社団法人ワンアース（茨城県）による東日本大震災からの復興事業「東北復興宇宙ミッション」参加団体による「復興宇宙サミット2023inNARAHA」は5日、楢葉町コミュニティセンターで初めて開かれた。参加者は地域連携などに意見を交わし、ミッションを通じて結ばれた宇宙規模の縁を深めていく決意を共有した。

東北復興宇宙ミッションでは、被災地から集めた農産物の種を国際宇宙ステーションに打ち上げるなどの事業を行った。地球に帰還した種は各地で栽培され、まちづくりなどに役立てられている。

サミットには楢葉小と楢葉中の児童生徒や県内外の中高生、ミッションに参加する自治体の首長ら約100人が参加。ワンアース名誉顧問の宇宙飛行士山崎直子さんが記念講演し、宇宙遊泳の経験を語った。子どもたちは山崎さんに宇宙での生活などを質問した。

「宇宙の紐（そらのきずな）」と題した討論も行った。宇宙規模で結ばれた地域の交流を深め、震災の記憶と教訓を次世代につなぐ方法などを話し合った。

NHKうたのおねえさんを務めたしゅうさえこさんが登場し、しゅうさんが作曲した「きぼうの桜」を参加者全員で合唱した。

ワンアースによると、サミットは毎年、各地の持ち回りで開催する予定。

第42738号

2023年（令和5年）
8月6日 日曜日

福島民友

旧暦6月20日 先勝 四緑

宇宙が縁 楢葉から交流 そらサミット

山崎直子さんが講演

復興宇宙サミットの特別講演で、児童生徒の質問に答える山崎さん㊨

一般財団法人ワンアース（茨城県）の第1回復興宇宙サミットは5日、楢葉町のコミュニティセンターで開かれた。サミットには、植物の種などを宇宙に打ち上げて復興のシンボルとする「東北復興宇宙ミッション」など同法人の事業に参加した全国約20の自治体が集まり、交流の輪を広げた。

サミットは「東北復興宇宙ミッション」で宇宙から持ち帰られた植物の種が各地で芽吹き、地域おこしに役立てられている現状を踏まえ、宇宙が結んだ縁をさらに深めていこうと企画された。開催地を代表し、楢葉町の松本幸英町長がこれまでの復興支援に感謝の言葉を述べた。続いて、楢葉小の6年生が古里で育まれた人と人とのつながりの大切さなどを訴えた。

同法人名誉顧問で宇宙飛行士の山崎直子さんの特別講演も行われ「宇宙は人類共通のフロンティア。だからこそ（立場などを超えて）協力しやすい」などと語った。児童生徒との質疑応答では、「UFOを見たことはありますか」「進路の選択に迷ったときはどうしますか」など、子どもたちの幅広い問いに親身になって答えていた。

サミットは毎年開催される予定になっており、参加団体は今後のさらなる交流の深化を誓い合っていた。

4.　課題と対策

今期までの活動はなんとか実施してきたが、財団運営に関わる共通経費（オフィス、人件費等）はほぼゼロであり、理想とする事業規模を推進するには財源が足りない。

公的補助金や自治体からの指名委託なども徐々に獲れるようになってきたが、さらに、民間からの受注を増やす努力が必要。

今後の対策は以下の通り

① きぼうの桜植樹実績および「東北復興宇宙ミッション」の絆を大切にし、国、県、自治体に直接働きかけていく
② ワンアース全般のサポートをしてくれる優良企業を見いだすこと
③ 一般向けの会員制度などを検討すること
④ 東北復興宇宙酒や宇宙グミなど、関連産業からの寄附を増やすための広報等に協力すること

6.　長中期事業項目（2020-2025 年）

一般財団法人ワンアースの社会的使命を果たすため、中長期的には以下の事業に取り組む。

1）　宇宙桜等の保護、育成、増殖及び活用
2）　東日本大震災、阪神淡路大震災等復興地への支援活動
3）　青少年等の夢をはぐくむ宇宙文化創造事業（市民参加型宇宙ミッション含む）
4）　宇宙文化交流事業（海外への桜贈呈等含む）
5）　地球市民参加型宇宙ミッション（花伝説世界版、地球のかけら　など）

これらに関しては、今年度の事業進捗を踏まえつつ、次年度以降の事業計画に反映していくものとする。

【特記事項】 今期の収入内訳等（個人御寄付以外）

- 看板デザインデータ制作を各自治体等から受託
- 宇宙グミ（BCC 社）からの御寄付
- 宇宙桜御線香（梅薫堂社）からの御寄付
- 甲府倫理法人会からの御寄付
- MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ様からの御寄付（100 千円･･･紲石製作費に充当）
- 東北復興宇宙酒の寄附（福島県酒造組合）